

## 東院庭園観月会

秋の始まりを告げる恒例行事となってきた東院庭園観月会ですが、今年も9月17日に開催しました。例年通り、参加者には奈良パークホテルの協力により提供された古代食と古代酒を手には、東院中央建物前の会場へと進んでいただきました。

本年は、宝亀4年(773)2月27日に、東院庭園が完成し光仁天皇が出御するとともに、完成に功のあった高麗石麻呂こまのいわまろに従五位下が与えられたという『続日本紀』の記述を参考に組み立てました。まず初めの雅楽演奏では、今回初めて横笛の太田豊氏に隅楼の高欄で演奏していただき、その後、本年の正倉院展の注目出陳品の一つである竽うを奏でいただきました(写真1)。

後半の天平衣装の披露では、光仁天皇とその家族、能登内親王たかののいひがさ、高野新笠、藤原曹司そうしが登場し、光仁天皇から高麗福信あきしん、石麻呂親子に位記いぎが授与される様子を再現しました(写真2)。

今後も史跡の調査研究だけでなく、その活用にも積極的に挑戦していくとともに、当時の平城宮をご理解いただけるような公開の機会を増やしていきたいと考えております。(副所長 杉山 洋)



写真1 雅楽の演奏(右から二人目が竽)



写真2 位記の授与(紫朝服:高麗福信、赤朝服:高麗石麻呂)